



プロジェクト名称 【参加人数: 11名】

いくべっ！福島支援プロジェクト

活動概要・目的 【活動期間: 2012年6月1日～2013年3月31日】

東日本大震災から1年が経過したが、被災地の復興にはまだまだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。

今年の4月、国は放射能基準値の改正を行った。福島県の農家の方々は放射線量を下げするために様々な努力や工夫を行っているが、世間には広く知られていないのが現状だった。そこで私たちはこの部分にスポットを当てた情報の発信をしていこうと考えた。それと同時に、福島を応援したいと考えている方々のために、福島を支援する機会を提供してきた。また消費者の方にアンケートをとり、消費者側の意見を収集し、生産者側に提供することで、消費者と生産者の意識の共有のサポートをしてきた。

年間活動実績

日程	活動概要	活動場所	活動内容
5/10～ 5/12	第1回 現地視察	福島市 会津坂下町	福島県庁・消費者センター・会津坂下町役場でのヒアリング
5/20	大宮祭当日	大宮キャンパス	会津産の味噌を使った田楽味噌の販売
6/1	意識調査実施	大宮キャンパス	東日本大震災に関するアンケート収集 (Web上でも実施)
6/17	学生プロジェクト選考会	豊洲キャンパス	企画内容の発表
6/27	福島のJAの方に ヒアリング	秋葉原駅	7月の視察時に話を聞ける農家さんの紹介
7/8	STUDY FOR TWO 講演会&活動発表会	文京区 区民センター	福島の現状や情報、自分たちの活動を発表
7/13～ 7/15	第2回 現地視察	福島市 相馬市	農協や農家でのヒアリング 東京農業大学と協力し放射線量測定の実施
7/22	東大宮サマーフェスティ バル(以下 東大宮SF) 打ち合わせ	東大宮5丁目自 治会	出店に関しての諸連絡、スケジュールの確認
7/23	SD研究会 中間報告会	大宮キャンパス	主に環境システム学科3,4年生へ活動発表



年間活動実績

日程	活動概要	活動場所	活動内容
7/28, 8/1	東大宮SF会場設営	東大宮中央公園	会場設営、機材搬入、ステージ組立、etc..
8/3~ 8/4	東大宮SF当日	東大宮中央公園	もろきゅうと桃の販売、意識調査の実施 笑顔ポスターの作成
8/3	Shirakawa week 14days	福島県白河市	東北を支援する他団体との交流 活動紹介や今後の活動方針の話し合い
8/5	東大宮SF後片付け	東大宮中央公園	片付け、会場の清掃
8/25~ 8/26	麻布十番納涼まつり	麻布十番商店街	会津坂下町の方々の販売の手伝い
9/21	いくべっ！福島ツアー下見	福島県	ツアーの下見、訪問地への挨拶
10/7	いくべっ！福島ツアー	福島県	福島の良さを感じてもらおうツアーを企画、実行
11/2~ 11/4	芝浦祭 当日	大宮キャンパス	味噌もちの販売、意識調査の実施 笑顔ポスターの作成、会津坂下町物産展の開催
11/3	写真が伝える物語 -あの日のこと	日本大学 三島校舎	福島の現状や私たちの活動の発表
11/25	会津坂下の方と話し合い	大宮駅	本プロジェクトの活動の説明 今後の活動の協力者を得られた
12/17	SD研 最終発表会	大宮キャンパス	主に環境システム学科3,4年生へ活動発表
12/19	避難者へのヒアリング	東京都江東区	浪江町で実際に被災した避難者の方から 当時の状況を語ってもらった
12/22	ふくしまへの架け橋	東海大学 代々木校舎	ワークショップに参加
2/21~ 2/23	東日本復興支援 お祭りストリート	東京駅	福島から出店している方の手伝い
3/1~ 3/2	第3回 現地視察	福島県	会津地方の観光業の回復度合いの確認 地元のイベントに参加



プロジェクトの成果・結果・達成度・関係者からの評価

◆第一回現地視察

この視察では福島県庁・消費者センター・会津坂下町などを回り福島県における風評被害の状況を確認した。ここでは、観光や一部の農作物の売れ行きが回復している一方で、震災後から様々な分野で福島産のものが敬遠され、ものが売れない状況が続いていることが分かった。これらを踏まえて、農家の方々にスポットを当てて活動を行うという方向性を確認した。

◆大宮祭

大宮祭の出店では、味噌田楽を販売した。味噌は去年の現地視察でお世話になった会津坂下町の目黒麴店のものを使用した。成果として、多くの方に福島産の美味しい食材を口にさせていただき、プロジェクトの活動を知っていただけた。今後の課題として、消費者からの声を生産者に届ける取り組みがあると良い。ということがあげられた。

◆STUDY FOR TWO「第一回 ここが聞きたい！ 講演会&活動発表懇親会」

文京区区民センターにて行われた東洋支部&東洋大学2部ESS主催の各地で活動している学生、社会人団体の講演会・活動発表懇親会に参加した。この講演会では、発表を通じて福島の実況・情報を発信することができた。また、自分たちの知らない様々な活動を知ることで刺激を受け、本プロジェクトの活動を全く知らない人たちに分かりやすいプレゼンとはどのようなものかを考える機会になった。

◆第二回現地視察

福島県伊達市の農家、関根幹男さんの畑で現地の農家の状況を知ること、東大宮サマーフェスティバルで販売する桃・きゅうりの買い付けを目的として見学を行った。ヒアリングでは、放射線量の検査の結果ほとんどが検出されていないにも関わらず、関東圏では報道されないとおっしゃっていた。また、本プロジェクトの活動に関してはアンケートを通じて、県外の方が福島に対してどのようなイメージを持っているのかを知りたい、出荷されたものは、複数回の検査を経て安全と判断されたものだということと呼び掛けるといったことを中心に活動を行ってほしいという激励の御言葉を頂いた。

また福島県相馬市では、東京農業大学が行っている作付に関する研究をお手伝いさせてもらった。

相馬市では基準値以上の線量が測定されたため、一部の田畑では現在も作付ができない状況である。東京農業大学のプロジェクトではそのような田畑での作付再開のために、放射性物質やセシウム濃度の測定、作土の深さの調査や土壌採取を行っている。一つ一つの作業がとても地道であり、活動を行っている皆さんの日頃の苦勞を感じた。

◆東大宮サマーフェスティバル

昨年に続き、出店をさせていただいた。今年は、福島県伊達市のみらい百彩館「んめ〜べ」から仕入れた福島産の桃ときゅうりを販売した。販売と並行して買っていただいたお客様に写真撮影をお願いし、笑顔ポスターを作成した。このポスターはご協力いただいた農家の方々に送らせていただいた。

また、アンケートも実施し、震災から1年が経過したが依然として多くの人が支援したいという気持ちを持ち続けているということが分かった。今後も支援できる場を数多く提供していこうと考えている。

◆Shirakawa week 14days

iupsという福島県の学生団体主催のイベントで、東北を支援する団体が集まり活動紹介や今後の方針などを話し合った。他団体との交流を図り、相互扶助の関係性を構築した。参加団体の中には私たちの活動と類似している団体もあり、今後の活動の大きな手助けになると感じた。

◆麻布十番納涼まつり

東京・麻布十番の商店街にて開催された「納涼まつり」に参加し、昨年からの私たちの活動にご理解・ご協力いただいている会津坂下町の方々が地元の銘酒「飛露喜」や地元産の馬肉を使った「さくら焼肉」などの販売をお手伝いした。正しい福島の情報を知ってもらうという活動を兼ねて参加したが、福島産の物に対する不安感は昨年ほどではないと感じた。去年の視察で言われた地元の方々と「何かを一緒に行う」ことができ、これからの活動に向けての架け橋となるだけでなく、協力体制を作ることができた。



◆いくべっ！福島ツアー

本プロジェクト初の試みで、一般の方の参加を募って福島への日帰りツアーを実施した。目的として、**現地でしか味わえない福島の良さや安全・安心性を知ってもらう。また、「いくべっ！福島支援プロジェクト」の活動を知ってもらう**ことが挙げられる。今回のツアーでは、まるえ果樹園、四季の里、飯坂温泉を訪問した。お土産として果物を購入したり、福島の名湯を楽しんでいただいたりと、**復興に向けて進む福島を感じていただけた**。ツアーに参加された皆さんだけでなく、地元へ帰って口コミ等で福島の良さが伝わることを期待している。

◆芝浦祭

出店二年目の今年は、味噌もちの屋台を出店した。味噌は以前からお世話になっている会津坂下町、目黒麴店の味噌を使用し、予定していた600食を完売することができた。また、東大宮サマーフェスティバルに引き続き実施しているスマイルプロジェクトとして、餅を買っていただいた方の笑顔を撮らせていただき、ポスターにして福島の方々に送るという活動を行った。「消費者の笑顔が励みになる」とおしゃっていたので、**消費者の反応を示していきたいと思う**。

味噌もち販売の他に、会津坂下町青年団の方にお越しいただき、福島産の漬物や卵、メロンやリンゴなどの販売を行った。**生産者の方に直接販売していただくことで、消費者はより安心して商品を買うことができ、生産者も消費者の反応を見ながら販売することができる良い機会になった**と考えている。売れ行きは好調で、多くの方に応援の言葉やご理解をいただいた。

販売と同時に、アンケート収集も行った。パーセンテージの変化や様々な意見から、**段々と震災が風化している**と感じた。この結果を参考に、来年度の活動方針など、どのような活動が必要とされているのか考えていきたい。

◆写真が伝える物語～あの日のこと

日本大学国際関係学部三島校舎で行われたパネルディスカッションに参加した。「ハビタットフレンズ三島」が、震災の記憶を風化させたくないという思いで開いたもので、本団体を含め、静岡大学ボランティアサークル「響」、「みしぼら」の3団体が登壇者として参加し、来聴者には一般の方も招いていた。**他団体との交流や一般の方々への発信の場として貴重な機会であった**。また、震災を見つめ直し、私たちが出来るこれからのことについて考えることができた。

プロジェクト活動を振り返って(チームとして成長したこと、感動や印象に残っていること、反省、今後の展望について)

まず、去年と比較して最も成長したと感じる部分は、現地の方々との繋がりがだ。今年度は中通り地区まで活動範囲を広げたこともあり、新たに多くの方々に関わることが出来た。そして、現地の方からこちらに協力を求めてくれるようにもなり、繋がりを更に強く、太くすることができたと思う。また、学外の講演会に参加したり、他大学の方と協力して活動するなど、他団体と関わる機会を積極的につくれたことも、いろんな考えに触れることができ、私たちの成長に繋がった。それから、私たちの活動の根幹である「情報発信」に関しても、SNSの利用や数多くのイベントに参加したことで、昨年度よりも幅広く行えたと感じる。

この1年間活動してきて、福島産のものに対する消費者側の不安感は、昨年ほどではないという印象を受けた。そういった点では、少しずつではあるが福島の正しい情報が浸透してきているのではないかと感じた。そのため情報発信は引き続き精力的に行っていこうと思う。

今後の展望として、今のところ取り組んでいきたいと考えていることが2点ある。一つは、実際の避難者や福島の生産者の方を登壇者として招いて、講演会を開くことだ。当事者の方に語ってもらうことでよりリアルな声を届けることができ、なおかつ一度に大勢の方に情報発信ができることが魅力であると考える。もう一つは情報発信の場の拡大である。先ほどの案も解決策の一つだが、情報発信に磨きをかけるため、もっと生産者に呼びかける場を増やしていきたいと思う。そのためには、今後はより多くのイベントや講演会に参加していきたいと考えている。

プロジェクト活動写真

【第1回 現地視察】



＜消費者センター＞



＜消費者センター＞

【大宮祭】



＜販売の様子＞



【STUDY FOR TWO 講演会&活動発表会】



＜団体との集合写真＞



＜発表風景＞

【第2回 現地視察】



＜ヒアリングの様子＞



＜計測風景＞

【東大宮SF】



＜桃とキュウリの販売＞



＜意識調査＞

【Shirakawa week 14days】



＜参加者との集合写真＞



＜発表風景＞

【麻布十番納涼まつり】



＜会場設営＞



＜販売の様子＞

【いくべっ！福島ツアー】



＜ぶどう狩りの様子＞



＜集合写真＞

【芝浦祭】



【写真が伝える物語 あの日のこと】



＜会津坂下町物産展＞

＜集合写真＞

＜集合写真＞

＜発表風景＞

【東日本復興支援 お祭りストリート】

【第3回 現地視察】



＜販売の様子＞

＜作業の様子＞

＜集合写真＞



＜笑顔ポスター 東大宮SFIにて＞



＜笑顔ポスター 芝浦祭にて＞